

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【区分及び領域】

「数と式」

▼全国平均より下回っている。

「図形」

▼全国平均より下回っている。

「関数」

▼全国平均より下回っている。

「データの活用」

▼全国平均より下回っている。

●数量を文字を用いた式で表すことができる
例) 果汁40%の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を、 a を用いた式で表す

●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる
例) 連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する

●証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうか
例) 四角形 AECF が平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ

●事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうか
例) A 駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取れば C 駅と D 駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ

●必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうか
例) A の手元のカードが3枚とも「グー」、B の手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目に A が勝つ確率を書く

○買い物や通学など、日常生活に結び付いた問題で「式に表す力」を養う
○式の変形が何を意味しているのかを、自分の言葉で説明する練習を重ね、表現力・理解力の向上を図る
○答えだけでなく、「どのように考えたか」を記述・発表する場面を増やし、筋道を立てて考える力を伸ばす

○答えを出して終わりにするのではなく、得られた結果から「そこから何が言えるのか」「どのように応用できるか」を考える時間を重視する
○一度導いた性質を使って、新たな事柄を見つける学習を意識して繰り返す

○グラフの特徴や変化の理由を自分の言葉で説明する活動を増やし、思考の深まりを図る
○関数を「表・式・グラフ」の視点から総合的に考える力を育て、状況の変化を多面的に捉えられるようにする

○さいころやくじ引きなど、確率に関わる活動を実際に体験し、「必ず起こるとはどういうことか」を実感を通して理解する授業を行う
○天気予報、ゲームなど、身近に接している題材に、「これはどのくらい起こりやすいのか?と考える機会をつくる